

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

March 2016
Vol. 43
毎月10日発行

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467

みんなの学習法は脳科学に基づいているか?!

高木 秀章(塾長)



今このGROWINGを書いているのは2月15日。昨日で私立の受験結果が出そろいました。挟みこみページに私立の結果は載せてありますが、今年度の生徒達も優秀です。本当にみんなよく頑張りました。そして、この

GROWINGが皆様の手に渡る頃には、公立入試も終了。私達は残りの1カ月、子供達と公立第一志望校を目指して頑張るのみです。

今年も新しい受験生達を迎え1年間頑張っていくのですが、今年の新中学3年生は1月の進研模試の平均偏差値が現時点で56、既に偏差値70以上が5人、偏差値60以上も40人以上います。例年の生徒と同じペースで成績を伸ばすと今年の生徒達は学年の平均偏差値60を超える可能性もあります。でも、それは皆さんの努力次第。そして努力には方法があります。

今回のGROWINGでは最近、私が読んでとても面白かった本「脳が認める勉強法」(ベネディクト・キャリー著)に書かれている、脳科学に基づく学習法について紹介したいと思います。皆さんの学習法は、果たして脳科学的に見ると正解かどうか。今回はQ&A方式でその学習方法を紹介します。

Q1 テスト前は夜遅くまで勉強するのがよいのか? 朝早く起きて勉強するのがよいのか?

睡眠には複数の段階があり、段階ごとにそれぞれのやり方で、記憶された情報の強化や識別が行われます。例えば、睡眠の前半に起こる「深い眠り」は、名称・日付・公式・概念といった事実を記憶にとどめるために重要な役割を果たすことがわかっています。ですから、たくさん暗記しなければならないテスト前は、普段通り就寝して「深い眠り」を十分にとり、朝早く復習するのが効果的だそうです。

ただし、運動能力や創造的思考(数学・科学・作文など)の教科に役立つ眠りの段階は、目覚める前の朝までの時間帯に訪れます。音楽の発表会やスポーツの競技会、あるいは創造的思考を要するテストの準備をする場合は、普段より遅くまで起きて準備するのがよいようです。記憶は十分な睡眠で定着し、ひ

らめきは明け方来るといことです。

Q2 1つの教科を一気に勉強するのと分けて勉強するのはどちらが効果的か?

1つの教科を一気に勉強するよりも分けて勉強するほうが効果的です。例えば英語を2時間通して勉強するなら1時間ずつ日を変えて学習を行う。あるいは、一日置いて学習するとさらに効果が上がるそうです。

勉強時間を分割し、さらにその学習の間隔を開けることで、前回までの内容を思い出さざるを得なくなります。これは、すでに知っている知識を掘り起こして記憶し直すことになり、このプロセスによって記憶の定着が確実になるそうです。また、この中では運動の実験が例に挙げられていますが、同じ種類の練習を続けるよりも、違う種類の練習を織り混ぜる方が、対応力が付き練習の効果は高いそうです。このように考えると、定期テストや受験前には、様々な内容が複合した過去問題を解くことが効果的である事も納得がいきます。

Q3 授業でとったノートの復習は役に立つか?

ノートの言葉をそのまま写す、ただ目を通すだけならノートの復習は全く役に立ちません。また、線を引くだけでもダメです。一方、大事な箇所に線を引いたノートを一読し、その後ノートを見ずに書き起こすのであれば、思い出すとする働きが強くなり、復習としては効果的です。思い出すと脳に負荷をかけることが重要です。

Q4 学習の合間にメールやマンガ。注意がそれることは悪いことなのか。

授業を聞くなど、一定の間、集中力を要するもの場合は、注意をそらす物は邪魔になります。しかし、数学の応用問題など問題を解いて行き詰った時、10分~20分の短い休憩を取ることは効果的です。

メールやゲームなどで、今取り組んでいる問題から離れることで、間違った思い込みから解放され、手掛かりと違った側面から物事を見られるようになります。人間の脳は、問題を解決したいという意欲があれば、問題から離れて休憩している間も、無意識に問題の事を考え続けているそうです。

どうでしょうか?皆さんの学習方法は、脳科学に沿ったものだったでしょうか。暗記をする時は一気にやらず時間を分ける。しかも、

復習する間隔を空けるなどして、少し思い出すのに苦勞する状況を作ること、そのプロセスが記憶を定着させていく。スラスラよりも少し負荷がかかる学習が記憶には効果的だということですね。それに対して、数学の応用問題や小論文などの創造力の必要な問題は、一定時間(時間を測った方が効果的)しっかり考え、その後、休息をとって、一旦、その問題を手放してしまう。しかし、その休憩の間も脳はその問題の解決策を探し続け、次に問題と向き合った時、新しい糸口を見つけ出せることが多い。皆さんの中でも、授業中わからなかった問題が、ふとした瞬間にひらめいたなどの経験はないでしょうか。実は、人間の脳がそのようにできているからです。

カイチで、1日に3教科を学習し1教科あたりの授業時間を短く取っていることや、コンピューターで作成される宿題に、その日の内容3題とそれ以前の内容2題を出題することで翌日と1週間前の復習が、予想問題と診断テストによって1か月間の復習ができるようになってるのは、脳に繰り返し負荷をかけて記憶を定着させるため、家でやった宿題に改めて塾で解説を行うのは、時間が経つことで別の視点に気づいてもらうためです。

家庭で学習する時にも、脳科学の学習方法は参考にできます。例えば、1時間ごとに学習する教科を変えてみるのもいいでしょう。また、数学の応用問題を考え、わからなくてもそのまま放っておき、社会などの暗記教科をしてから、再度、数学のわからなかった応用問題を考えることで、解法の糸口が見つかりやすくなるばかりか、脳は社会をやっている間も数学の問題を考え続けているので、学習量は2倍になります。

学生の皆さんはもちろんです、学ぶことは皆さんが社会に出て、生きている限りずっと続くものです。そして、学び続けることと人生の豊かさは比例していると私は考えています。そして、意外なことですが、私達は自分の脳の正しい使い方を知りません。もし、この素晴らしい「脳」を使いこなせたらどうでしょう。「天才」と呼ばれる人達が、単に「脳の使い方」を知っている人達だとしたら……。是非、皆さんも脳の性質を知り、それに適した学習に挑戦してみてください。皆さんの中に、すごい力が眠っているかもしれません。



CLASSROOM REPORT 教室レポート

新年度スタート！ 気持ち新たに全力投球

熊谷 真宏 (今福教室)

新年度がスタートしました。先生達は年明けから大忙しの日々で、今年もこうして無事に新年度を迎えられたことに、ひとまずホッとしているところです。子供達にとっては、学校よりも1カ月早く進級を迎えるということで、少し戸惑う部分もあるかもしれませんが、保護者の方々にとっては、「うちの子ちゃんと勉強についていけるかしら？」と心配に思われる面もあるかもしれません。それぞれの思いを持って迎える新年度。どんな1年になるのか、今からとても楽しみです。

さて、今年も今福教室では多くの新入生を迎えることができました。今福は「本部教室」という名前が付いているだけあって、カイチの全教室の中でもダントツの生徒数を誇ります。400名以上の子供達が毎年通ってくれていますが、この400名という数をキープするのがとても大変なことなのです。冒頭でも述べましたが、先生達にとっては

そういう意味で「無事に新年度を迎えられた」というわけです。数ある塾の中からカイチという塾を選んでいただくというのは、本当にありがたいことです。だからこそ、より一層身を引き締めて、子供達の指導に常に全力投球で臨みたいと思います。

今年度、特に注目したいのは新中学1年生。例年以上にハイレベルなメンバーが揃っている学年を、カイチの先生達は「ゴールデンエイジ」と陰で呼んでいるのですが、まさにその名にふさわしい優秀な生徒達です。何が優秀かという、勉強に対する姿勢が素晴らしい。自主性を持って勉強に取り組める子供が多いのがこの学年の特徴です。診断テスト前にもなると、土曜日の昼1時から5時半まで、ノンストップで塾で勉強する子もいるほどです。小学生にしてこれだけの勉強ができるというのは、相当意識が高くないとできないことだと思います。3年後の高校

入試で、この子供達がどれほどの結果を残してくれるのか、本当に楽しみです。

また、今はまだ素質を眠らせたままの子もたくさんいます。中学校3年間で、その素質をどれだけ開花させてあげられるかというのが先生達の使命であり、またやりがいでもあります。小学校と比べて学習内容はグッと難しくなりますが、やるべきことは小学部のときと何も変わりません。日頃の宿題をコツコツ丁寧にやること。そして、時間があるときに復習を欠かさないこと。この2つがしっかりとできていれば大丈夫です。あとは先生達を信じてついて来てください。ともに頑張りましょう！



Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

今年度のカイチの取り組み

熊谷 周作 (関目教室)

いよいよ新学年がスタートしました。今年度の受験からはいよいよ、公立高校入試の最も難しい英語の入試問題のレベルがリーディング・ライティング・スピーキング・ヒアリングの4技能を意識したものに变化し大幅に難化します。従来の入試問題より1分間に読む量は2.7倍にもなります。2018年度からは英語は小学校で教科化、2020年からは中学の英語の授業は英語で行われるようになります。

変化するのはもちろん英語ではありません。知識や技術を組み合わせ、いかに問題を解くかを問う活用力の傾向も増々強まっています。ちょうど1月・2月で行われた、小学校の診断テストでは、活用力問題が出題され、やはり例年より平均点が下がったという話も聞いています。日本の教育は、すでに大きく変わろうと舵をきっているのです。

カイチでは、このような変化に対応するため様々な取り組みを行っていきます。下記は、すでに今年度、実施が確定しているカイチの取り組みです。指導する私達もワクワクしています。

1. 小学部で英語指導を導入

カイチでは今年度から小学部の授業に英語が導入されます。使う教材は4技能がバランスよく入っているNHK英語講座。英語に親しむことは当然の事、中学英語に役立つよう、小学4年生からの学習で、中学2年生の2学期内容までを学習します。

2. トーキングキッズの開講(年中～小学6年)

2月の体験学習はお知らせを配って僅か1週間で60名以上が体験学習に申し込まれ、皆さんの英語への関心の高さを感じました。トーキングキッズの指導の最大のポイントは、日本語を使わず英語で指導するダイレクトメソッドと、矢継ぎ早に質疑応答するダブルメソッドです。他の英会話教室と比べ英語で話す時間が多くあり、英語の質問に即座に答えるため、英語を日本語に訳す時間がなく英語を英語で考える「英語脳」を育成します。子供達が将来、本格的に英語を修得する際、英語をスムーズに理解し吸収する力を育てます。将来は高校入試のリスニングやスピーキングに対応するため中学生の講座も開講予定です。

3. 活用力講座(中学部)

これからの受験の合否を大きく左右する活用力の対策授業を中1～中3で年間30時間設けます。カイチではこの講座を開設するため昨年1年間にわたり、全国の公立入試問題を分析し、指導用教材を全てオリジナルで開発しました。公立トップ10校合格の最大のポイントは、この活用力問題にいかに対応するかだと私達は考えています。カイチでは中学1年生からいち早く、通常授業の中でこの活用力に取り組みます。

4. 名作読解(小学部)

名作が名作と言われる理由は、その解釈の多様性にあります。小学部の国語では月1冊、長年読み「継がれる」文学作品をテーマに、それに対する意見を話し合い、自分なりの考えをまとめる授業を行います。将来の受験の地力となる読解力と表現力を小学生から磨きます。

上記の他、今年度も教育講演会や昨年度のドローン実験のようなアクティブラーニングも実施予定です。「子供達の努力を成果に、保護者様の不安を期待に。」

私達は精一杯子供達の学習をサポートしていきます。



良いところ

- 実着地や危ない地域など、人間の立ち入り困難な場所への入ることが安全かつ簡単
- 小型・軽量なので持ち運びが簡単
- 有人ヘリや大型機と比較してお金がかからず
- 有人機では困難な低空・接近撮影ができる



COLUMN: 先生紹介 ▶ 藤川 則子 (バスカルキッズ今福教室)

34年乗り続けている愛車



こんにちは。今福教室バスカルキッズ担当の藤川です。近頃は色々な物がすぐ手に入るととても便利な世の中になりました。そ

の分、すぐに捨ててしまい、新しい物を手にする事が多くなっているように思います。

そんな世の中の動きとは反対に、なんと私は34年同じ自転車を使い続けています。結婚してすぐに主人が買ってくれました。今も通勤には欠かせない私の大事な愛車です。子供達が誕生し、最大乗車人数は4人の時もあ

りました。周りから「自転車がかわいそう!」との声もちらほらでした。

購入から15年程経った頃からタイヤのパンクや、色々な故障で何度か修理をお願いすると、必ずこの自転車屋さんでも、「良い自転車ですね。今こんなしっかりした物はなかなかないですよ。大切に乘ってください。」と仰ってくださり、思わず「はい、頑張ります。」と答えていました。

しかし、30年を過ぎた頃から修理してもなかなかすっきりせず、やはり寿命ではないかな?と悩んでいたら・・・なんと、主人が「費用は全額出すから解体修理してもらったら。」と提案してくれました。何と優しい!!その結果、自転車一台購入できる程の費用はかかりましたが、軽快な走りが復活しました。

今回、私の場合は費用がかかってしまいましたが、すぐに捨ててしまうのではなく、ちょっと工夫すれば再利用、または復活する物もあるかもしれませんよね。それぞれ考え方はあると思いますが、もうだめ、捨てよう!と思う前にちょっと考えてみるのも良いのではないのでしょうか。

高木の
ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE 高木 直也 (諸口教室)

生徒達を3年間指導して

私が開智総合学院に来て、丸三年が経ちました。私が入社した年に中学に入学した生徒達が高校受験を迎え高校生になろうとしています。振り返るとあっという間にも思えますし、非常に長くも思えます。塾講師として一つの学年を持ちあがり三学年見ることはこれまでなかったので、この三年は、私にとって非常に貴重な時間でした。2013年の3月、初めて彼らを見たときは非常に明るく元気な印象を受けました。ただ、やはり、小学生から上がったばかりの彼らは幼さを当然残しており、スキがあればしゃべる、男女関係なくケン

カするなど、今から考えれば色々あったなと思います。そんな彼らもこの三年で皆それぞれ大きく成長してくれました。その成長の過程を見ることができ、子供達の可能性を再認識しました。

例えば、力はあるけども、なぜなかなか成績に反映されない男子生徒。その原因は「雑さ」にあり、本人も自覚しているのだけれどもなかなか治せない。何度テストしてもケアレスミスをしてしまう。その子を三年見えてきて感心したことは、三年を通してその自分の課題に目をそむけなかったことです。毎回テストの度に、解く順番を変えてみたり、解くスピードを変えてみたり、見直しを繰り返して

みたりと、様々な工夫が彼の答案から見られたこと。そして迎えた中3の定期テストで2年ぶりの自己ベスト更新。少しずつケアレスミスも減ってきてようやく彼の努力が実を結んだのだと非常にうれしく思いました。

また特進にいながらなかなか結果を残せずクラスダウンの危機に瀕しながらもすんでのところ踏みとどまった生徒もいました。苦手科目にも積極的に取り組み、科目によって大きな開きのあったその生徒は受験期には見事に弱点を克服し、私達を大変驚かせてくれました。これだけではありません。子供達の頑張りには常に私達を驚かせてくれます。そして、そのような生徒達は皆、勉強を「自分でする、自分からする」生徒達なのです。

開智の教育というのは型にはめ押し付けるのではなく、生徒の「自分からやりたい!やってみてほしい!」にとことん付き合い応援することであるのだと思います。

今年も新学年が始まりました。新学年を迎える生徒達がこれからどんな成長を遂げるかを先生達も楽しみにしています。今年も一年一緒に頑張っていきましょう!

カイチからの
お知らせ

- 3月10日(木)は公立入試日です。受験生の皆さんガンバレ!
- 3月18日(金)は公立入試合格発表日です。
- 3月19日(土)は新中学3年生を対象に入試説明会を実施します。
- 3月24日(木)~3月30日(水)は春期休塾日です。
- 3月31日(木)より春期講習会スタートです。